

さくら歩楽の会

日本三大弁財天の江島神社

義経ゆかりの
腰越・満福寺
日蓮の龍口寺から
江の島へ



(スタート) 鎌倉駅・江ノ電改札口

平成27年 5月 20日

横須賀線と江ノ電

●横須賀線は、横須賀軍港と首都東京を結ぶ国防上の必要から、明治22年(1889)に東海道の支線として開通した。同年、逗子駅、横須賀駅と同時に鎌倉駅が開設された。開通当時は単線で、大船～鎌倉間は1日4往復であった。北鎌倉駅は、昭和2年(1927)に最初は夏場だけの臨時駅で、昭和5年に本格的な駅になった。

●鎌倉の町の中を縫って走る江ノ島電鉄、通称「江ノ電」は、鎌倉と藤沢の間 10.1 kmを約34分で走る単線で、沿線住民にも観光客にも親しまれている。明治35年(1895) 藤沢から片瀬まで 3.5 kmが開通。2年後極楽寺まで。長谷へ抜けるトンネル工事が難航し明治40年になって終点の小町(現鎌倉駅)まで開通(テキストより)

浄泉寺



● 真言宗大覚寺派。開山は空海(弘法大師)と伝えられる。赤い山門の正面に本堂があり、境内には地藏堂や、関東大震災の供養塔などが建っている。かつて、ここに開かれていた寺子屋が、現在の鎌倉市立腰越小学校の始まりである。

小動神社



● 小動岬にある腰越の鎮守。小動は、風もないのに揺れる美しい松ノ木がこの地にあったという伝説からである。

● 文治年間(1185～1190)、江ノ島詣での折に訪れた「佐々木盛綱」が、その松に魅了され、祖父の領地・近江国の八王子宮を

かんじょう
勧請したのがはじまりとされる。元弘3年(1333)新田義貞が鎌倉攻めの際に戦勝祈願をし、後に社殿を再興した。

● 八王子宮とは、素戔嗚尊の御子神・五男三女神をいう。小動岬は太宰治心中末遂事件を起こしたところでもある。

満福寺



● 写真は、腰越状をしたためる義経の鎌倉彫を取り入れた襖絵です。「義経と静」の別れの場面を描いたものなど 32面の襖絵がある。

● 真言宗大覚寺派。開山は行基。文治元年(1185)5月15日、平家の総帥・平宗盛、清宗父子を捕虜として、意気揚々と鎌倉へ凱旋するた

め酒匂に到着した。頼朝は北条時政を遣わし宗盛らを受け取ったが、義経が頼朝の命令に背き、我ままな振舞いがあったとし、義経の鎌倉入りを拒んだ。
● 5月24日、自分の勲功を兄・頼朝に喜んでもらえるものとはばかり思っていた義経は、腰越に留まって切実な思いを込めた書状(腰越状という)を大江広元宛に送り兄へのとりなしを願ったが、頼朝の気持ちを変えることはできなかった。やがて酒匂川あたりまで退いて勘気の融けるのを待ったがそれもかなわず、ついに6月9日、むなく京に帰っていった。このとき、腰越で義経が逗留していたのが満福寺であったといわれている。

人物名

● 行基…奈良時代の高僧。僧侶を国家機関と朝廷が定め佛教の民衆への布教活動を禁じた時代に、禁を破り民衆や豪族など階層を問わず広く仏法の教えを説き人々より篤く尊敬された。大僧正として、聖武天皇より奈良の大仏(東大寺)造立の責任者として招聘された。

● 大江広元…出身は京都の下級貴族の出です。頼朝の最大の助言者として重用され、鎌倉幕府創設の時、初代政所別当をつとめた。北条執権になっても重鎮的存在で、78才でなくなりませんが、鎌倉幕府の基礎は、広元が設計したといわれている。
● 広元から数えて14代目が毛利元就です。毛利家の祖。

龍口寺の刑場跡



● 日蓮聖人は、「立正安国論」を著し、鎌倉幕府に奏上した。幕府はこれを政策への中傷であると受け止め文永8年(1272)9月12日に捕らえ、斬首するために、刑場であったこの地、龍ノ口に連行された。● 翌13日子丑の刻(午前2時前後)、あわや斬首になるとき、「江ノ島の方より満月のような光が飛んできて、首斬り役人の目がくらみ、畏れおののき倒れ」、斬首の刑は中止となりました。(龍口寺HPより)

じょうりゅうじ
常立寺 (藤沢片瀬)



● 八代執権・北条時宗は、建治元年(1275)、元(モンゴル帝国)の使いとして日本(長門国)にやってきた杜世忠ら5人を龍ノ口で処刑した。常立寺には五基の五輪塔が建てられ供養されたと伝えられている。現在、境内にある「元使塚」は、

大正14年(1925)、時の住職によって建てられたもの。
* 杜世忠ら日本に来たのは、初めて蒙古が襲来した「文永の役」の翌年のこと。日本に服属を求める使節だったという。
* 平成17年には、朝青龍や白鵬などのモンゴル力士が参拝し、モンゴルで英雄を意味する「青い布」が五輪塔に巻かれた。

江ノ島弁天橋



● 安藤広重の「相州江の島」の浮世絵です。江戸時代には、片瀬の浜から干潮時に現れた陸路を歩き、江ノ島を訪れていたそうです。明治の時代になって木橋が架けられ、昭和28年には389mのPC橋(特殊強度コンクリート)に改修されました。

ここからは「江の島イラストマップ」と併用してください

青銅鳥居



● 江の島の入口に建つ青銅鳥居は文政4年(1821)に再建された鳥居。鳥居をくぐるとみやげもの店、旅館、食堂が連なる門前町。途中の岩本楼は岩本院跡で、岩本院は弁天社の本宮をあずかっていた一山の総別当。弁天信仰の盛んだった江戸時代には、勅使、将軍、大名などの宿泊施設として栄えた。

ぐいしんもん
瑞心門



● 写真は「辺津宮」の瑞心門で、辺津宮の御祭神は田寸津比売命を祀っている。
● 江島神社は辺津宮、中津宮、奥津宮の三社三女神からなっている。これは、福岡・宗像神社、広島・厳島神社の三女神と同じである。辺津宮の現在の社殿は昭和51年(1976)に改築されている。

奉安殿



● 寿永元年(1182)、頼朝は文覚上人に命じて、弁財天を勧請し、奥州征伐に先立つ戦勝を祈願した。この弁財天が「八臂弁財天座像」で、他に「裸弁財天像」、「十五童子像」などが安置されている。八臂弁財天座像は鎌倉時代の作で、八本の手に弓、矢、剣、宝珠、輪宝・矛、長杵、健棒を持っている。

児玉神社



● 明治31年、台湾総督に就任。その後、明治37～38年の日露戦争を勝利に導いた立役者。

「江の島エスカー」…高低差46mを4連で結ぶ106mのエスカレーターで、4分でアクセスする。



中津宮

● 「市寸島比売命」を祀る。慈覚大師・円仁がに寿3年(853)に創建したと伝える。元禄2年に再建され、現在の社殿は平成8年に大改造している。参道脇に、天明2年(1782)、江戸中村座が奉献した石灯籠は見事です。

江の島大師

● 鹿児島・西福寺の関東別院として平成5年に創建。本尊は不動明王で室内にある像としては国内最大6mの威容を誇り、赤不動とよばれている。

奥津宮



● 頼朝が寄進したという石鳥居をくぐると、「多記理比売命」が祀られている奥津宮です。
● 拝殿の天井に「酒井抱一」の描いた「八方にらみの亀」が描かれている(模写)。境内には亀甲石がある。
● 群猿奉養像庚申塔…36匹の猿がユーモラスな姿で刻まれている。

岩屋

● 江島神社の伝によれば、欽明13年(552)に欽明天皇の勅命で、ここに神様を勧請した。修験道の開祖・役行者、空海、円仁、日蓮など多くの名僧が修行したと伝えられる。建久3年(1190)には、北条時政が子孫繁栄を願い、この地に参籠。満願の夜に弁財天が現れ願いを聞き入れた後、「龍」となり「鱗」を三つ残していったという。これが北条氏の家紋の由来です。

杉山検校

● 江の島弁財天社に21日間籠って祈願し、その満願の日に「福石」につまずき、それが「管絃法」が生まれるきっかけとなった。